



平成 19 年 11 月 7 日

各 位

会社名 川田工業株式会社
 代表者名 取締役社長 川田 忠裕
 (コード番号 5931 東証・大証第一部)
 問合せ先 常務取締役経理部長 渡邊 敏
 (TEL. 03-3915-4325)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 19 年 5 月 22 日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値の修正

(1) 20 年 3 月期中間連結業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 19 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	56,000	0	50	0	0.00
今回修正予想 (B)	49,179	△2,425	△2,558	△1,695	△29.54
増減額 (B-A)	△6,821	△2,425	△2,608	△1,695	
増減率 (%)	△12.2	—	—	—	
(ご参考) 前年中間期実績 (平成 19 年 3 月中間期)	55,117	465	510	△434	△8.32

(2) 20 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	117,000	500	300	600	11.30
今回修正予想 (B)	111,000	△4,000	△4,500	△3,500	△60.99
増減額 (B-A)	△6,000	△4,500	△4,800	△4,100	
増減率 (%)	△5.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 19 年 3 月期)	116,895	△472	10	43	0.82

2. 個別業績予想数値の修正

(1) 20年3月期中間個別業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成19年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	45,000	△100	△400	△400	△7.49
今回修正予想(B)	37,144	△2,040	△2,340	△1,354	△23.43
増減額(B-A)	△7,856	△1,940	△1,940	△954	
増減率(%)	△17.5	—	—	—	
(ご参考)前年中間期実績 (平成19年3月中間期)	41,348	412	149	△741	△14.11

(2) 20年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	86,000	100	△600	100	1.87
今回修正予想(B)	82,000	△3,000	△3,700	0	0.00
増減額(B-A)	△4,000	△3,100	△3,100	△100	
増減率(%)	△4.7	—	—	△100.0	
(ご参考)前期実績 (平成19年3月期)	84,643	△593	△1,149	△694	△13.00

3. 修正の理由

(1) 個別

中間期の売上高につきましては、当社の主要な売上部門である橋梁部門、鉄骨部門、建築部門において、工事進捗の遅れ等により当初見込んでおりました進行基準対象工事の売上高が上がらず、前回予想を17.5%程度下回る見込みであります。営業利益、経常利益につきましては、前期迄に低価格で受注した橋梁部門の工事の採算が設計変更、架設条件の変更等により当初見込みから大幅に悪化したことに加え、建築部門における資材、労務費の上昇等も採算性の悪化を招く結果となり、前回予想を1,940百万円程度下回る見込となりました。

また、通期の売上高につきましては、下期に完成する工事割合が大きいという季節的変動の要因もあり、前回予定を若干下回る82,000百万円程度となる見込みであります。営業利益及び経常利益につきましては、通期も中間期同様の影響は回避できず、それぞれ3,100百万円程度下回る見込みであります。また、当期純利益につきましては、今後下期にかけて投資有価証券等の売却等を実施することにより特別利益の確保に努め、前回予定を100百万円程度下回る当期純損益0百万円程度に留める見込みであります。

しかしながら、この不採算要因につきましても、工事損失引当金を計上することにより完成工事原価で既に織り込み済みであること、採算性を重視した選別受注に注力していることから、来期以降、その効果は現れてくる見込みであり、この詳細事項につきましては、11月20日の中間決算発表日にあわせて公表予定の「中期経営計画」にて公開する予定であります。

(2) 連結

中間期の売上高の減少につきましては、当社の売上高の変動が主因であります。営業利益、経常利益につきましては、当社の要因に加え、連結子会社川田建設㈱の競争激化による工事損失引当と操業度不足による間接費の未回収、及び持分法適用会社の工事損失引当が加わり、前回予想をそれぞれ2,425百万円、2,608百万円程度下回る見込となりました。

通期の売上高につきましては、下期に完成する工事割合が大きいという季節的変動の要因もあり、前回予定を若干下回る111,000百万円程度となる見込であります。営業利益及び経常利益につきましては、通期も中間期同様の影響は回避できず、それぞれ4,500百万円及び4,800百万円程度下回る見込みであります。また、当期純損失につきましては3,500百万円程度となる見込みであります。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報を基に作成しております。

実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

以 上